

知っておきたい 「食品添加物」のこと 徹底分析勉強会

成長期の子どもたちには特に悪影響をおよぼす恐れがあるとされる食品添加物。体にどんな影響を与えるのか、健康には影響はないのでしょうか。食品添加物の現状や、食生活の危機を訴えている『食品の裏側』著者の安部司先生をお迎えし、食品添加物について徹底的に勉強します。子どもたちのこと、家族の健康を考える方、ぜひご参加ください。実験もまじえて、食品添加物のこと、徹底的に考えます。



講師

『食品の裏側』著者
安部 司先生

私たちの社会は戦後、驚くほど豊かになり便利・快適になってきました。しかしこの便利で快適な生活の「裏側」には多くの化学物質があることを忘れてはいけません。食品の世界においても同様です。案に簡単に食事をする事ができるのは「食品添加物」のおかげです。

今日の豊かな生活の裏で私たちは何を失って、何を失ってきたのか。また失いつつあるのか。「食の危機」が叫ばれている現代、あらためて考えてみたいと思います。

■プロフィール

1951年福岡市の農家に生まれる。山口大学文理学部化学科卒業。総合商社食品課で食品および添加物に関わる仕事に従事。退職後、加工食品の開発や海外での食品の開発輸入に携わる。

現在、無添加食品の開発や伝統食品の復興、有機農産物の販売促進に取り組んでいる。食品添加物の現状、食生活の危機を訴えた『食品の裏側』(東洋経済新報社)は70万部を突破するベストセラーに。(社)加工食品診断士協会の代表理事。

勉強会のご案内

日時: 3月23日(土) 14時~15時30分
 場所: 上尾市文化センター201集会室
 埼玉県上尾市二ツ宮750
 TEL: 048-774-2951 参加: 無料

キッズ
スペース
あります!

■事前に下記へお申し込み下さい(先着70人)。

大島敦事務所
 TEL: 048-789-2110 FAX: 048-789-2117
 キッズスペースあり。お子さん連れでおいでください。

食を守るため、 私も全力で取り組みました

沖縄経済に寄与した「黒糖」問題の解決

大島 敦(おおしまあつし)
 衆議院議員 埼玉6区



私が内閣府副大臣時代に取り組み、沖縄訪問時にはJA沖縄会長や沖縄県知事から感謝の言葉をいただいたのが、黒糖表示の改善です。沖縄で観光客に人気の高い沖縄三大土産は黒糖、泡盛、ちんすこうです。このうち黒糖については、私が内閣府副大臣になる以前には2種類あって、1つがサトウキビからつくった本物の黒糖なのに対して、もう1つは白砂糖に蔗糖蜜を入れたまがい物の黒糖です。土産品でも価格が安いためにまがい物の黒糖のほうが本物の黒糖よりもよく売れました。

菓子業界でも、黒糖と称してまがい物の黒糖が大量に用いられていたため、本物の黒糖が余ってしまっていたのです。本物の黒糖は沖縄本島周辺の離島で生産されています。当然、黒糖の生産に携わっている島民の皆さんの生活も苦しくなりました。

この沖縄の皆さんから「黒糖の在庫を何とかしてほしい」という要望が寄せられたので、問題解決のために直ちに消費者庁に働きかけました。ここでは大島が1人で沖縄担当と消費者庁担当を兼務していたことも有利に働きスムーズに仕事を進めることができました。

2010年9月の参議院の沖縄関連の委員会で

は、副大臣として「政府としても今年3月に公表した食品表示に関する指標で黒糖とはサトウキビを絞ってそのまま固めたものであると定義して再製糖と黒糖を区別することにしました」「黒砂糖と黒糖の定義の明確化について検討を進めていきたい」と答弁しました。

さらに、翌2011年3月のJAS(日本農林規格)法の解釈通知で「黒砂糖と黒糖は同じである」と明確に打ち出したのです。

その結果、黒糖の表示が許されるのは本物の黒糖だけに限られることになり、お菓子に黒糖と表示できるのも、お土産として売ることができるのも本物の黒糖だけになりました。以後、沖縄の島々に溜まっていた黒糖の在庫もなくなり、黒糖の需要が増えて沖縄の経済活性化にもつながったのでした。



黒糖を生産している石垣島で川平湾の自然保護と観光振興について地元の関係者と意見交換。

「リケジョ」として興味津津進みます

司会

穴戸千絵(ししどちえ)
 国民民主党埼玉県参議院選挙区第1総支部長

■穴戸千絵さんの連絡先

〒332-0017 埼玉県川口市栄町3-14-15 5階
 TEL048-253-0010 FAX048-253-0011



ししどちえ



■プロフィール

1977年12月3日生まれ。夫と2人暮らし。
 埼玉県草加市谷塚保育園、谷塚小学校、東京都国立市立第七小学校、桜蔭学園中学・高等学校、早稲田大学理工学部応用化学科を卒業、ジョージワシントン大学経営大学院修士。元国家公務員、製品評価技術基盤機構、経済産業省、アメリカ環境保護庁勤務。主に環境安全、国際標準化、貿易障害の削減交渉に従事。民間企業・富士ゼロックス(株)でICTや新技術を活用した新規事業開発に取り組む。

1歳児のパパの視点で食の問題を追及します

コーディネーター

町田皇介(まちだこうすけ)
 前上尾市議・党支部県政担当(上尾・伊奈)

■町田皇介さんの連絡先

〒362-0015 埼玉県上尾市緑丘3-6-32
 TEL048-793-4811
 FAX048-776-8213

■プロフィール

1979年7月31日生まれ。妻・長男(1歳)愛犬(茶々丸)♀と暮らす。
 桶川西中学校、蕨高校、日本大学商学部卒業。大学卒業後、テレビ番組制作会社、衆議院議員事務所スタッフ勤務後に上尾市議会議員3期。2017年11月~第46代上尾市議会副議長をつとめる。好きなものは卵料理と牛乳。小学生の頃まで実家が養鶏所で、牛乳は子どもの頃から毎日飲んでいる。趣味はスポーツ観戦、ソフトボール、フットサル、ゴルフ、家族と買い物、愛犬の散歩。

